

初診時から始まるインプラントのメンテナンス ～天然歯とインプラントを守るために～

日時：令和3年8月29日(日)
場所：フクラシア東京ステーション、Web 併催
講師：河野 章江先生



中原 達郎 (千葉県)



コロナ禍の続く今回、特別研修会は Web 開催となりました。

今年度の特別研修会 (DH セミナー) は、公益社団法人日本歯科衛生士会専務理事で、専門歯科衛生士委員会の委員の、東京医科歯科大学歯学部口腔保健学科非常勤講師、講道館ビル歯科・口腔外科、歯科衛生士 河野 章江先生を講師にお迎えして、「初診時から始まるインプラントのメンテナンス～天然歯とインプラントを守るために～」と題してご講演いただきました。

まず前半のご講演では基礎知識の確認に十分な時間を割いてしっかりと説明をしていただきました。インプラントの特性や PD, FD, ブリッジとの違い、解剖学的に天然歯とどう違うかは、歯科衛生士のみならずインプラント初心者もきちんと押さえておかななくてはならない重要な知識です。特に歯肉との付着様式が天然歯は結合繊維性付着でマジックテープ、インプラントは上皮性付着でタートルネックと比較して例えられたのは想像しやすかったですし、患者説明の際には利点ばかりではなく必ず欠点にも言及し、過度な期待を抱かせないことを強調されていました。

次に問診から始まるインプラントの治療計画と、それに沿った解説を詳細にご説明されました。

いくらインプラント治療が優れているとはいっても、治療の成功のためには術前のセルフケアの習慣を獲得しておくことや長期的なメンテナンスの重要性は知っておかなければなりません。手術に際してはガウンの着方やドレーピングにも丁寧に言及していただき、意外と盲点になる注射器や麻酔薬のカートリッジの取り扱い、手術器具の解説や器具の洗浄や管理の仕方なども細かく教えていただきました。ドリル類は血液が付着したまま熱を加えることは厳禁で、洗浄がとても大切であることを特に強調していただいたのは、スタッフ教育の面でとても助かりました。

休憩を挟んで後半のご講演では、実際のメンテナンスプログラムとして何をしているのかをお話しいただきました。河野先生は通常1時間の予約枠をメンテナンスに充てておられ、問診では生活環境や全身状態の変化を聞くこと、口腔内診査では歯肉組織とインプラント周囲組織をしっかりと見て「毎回小さな変化を見逃さない」よう強調されていました。また、賛否両論あるインプラント周囲へのプロービングについての肯定的なご意見や、これもまた見解の新旧がある上部構造の形態についても、清掃性を確保したいこと、歯間ブラシやワンタフトブラシを用いた具体的な清掃方法のポイントも教えていただきました。これらはすべてエビデンスに基づくご意見であり、引用されていた文献からも十分信頼に足るお話だったと思います。さらに、フッ化物によるインプラント体の腐食について、フッ化物濃度とチタン合金の溶出の関係について解説しました。結論からいえば9000ppm を超える強酸性のものは除き、私たちが日常で使用している1000ppm くらいの歯磨剤であれば影響はないと確認できたことは収穫でした。

第2回 特別研修会 (DH セミナー)



注意する疾患	
肺がん	
前立腺がん	
乳がん	
骨粗鬆症	
関節リウマチ (ステロイド剤も服用)	
※BP系薬剤を服用していることを知らない患者	
※BP系薬剤の服用を歯科に知らせなければいけないと知らない患者	
※服用しているBP系薬剤がBRONJ/MRONJを引き起こすかもしれないと知らない患者	

フッ化物配合歯磨剤によるチタンおよびチタン合金の溶出	
酸性歯面塗布剤 (9000ppmF)	221~239 μ g/cm
中性歯面塗布剤 (9000ppmF)	7~8 μ g/cm
酸性洗口剤 (450ppmF)	7~8 μ g/cm
酸性歯磨剤 (1000ppmF)	0.5ppm以下
中性歯磨剤 (900ppmF)	0.5ppm以下

メインテナンスの間隔については、患者のセルフケアの状態やリスクによって変わってくるものの、最低でも6か月に1度は来院していただくようにしています。歯周病と同様に、インプラントもいきなり骨喪失を伴う状態になるわけではなく、まずはインプラント周囲粘膜炎に罹患し、それが進行することでインプラント周囲炎へと移行します。そのため我々がなすべきこととして、まずは「疾患を起こさないようにすること、たとえ疾患が生じたとしてもインプラント周囲粘膜炎で留め、インプラント周囲炎へと移行させないこと」をしっかりと踏まえてメインテナンスを行うこととされていました。インプラント周囲炎は細菌由来の場合と咬合のオーバーロード由来の場合もあるので、メインテナンス時には咬合状態の確認も行うこととされていました。また、インプラントのメインテナンスにおける使用器具としては、プラスチックスクレーパー、エアフロー、エアスクレーパー用のブラシ、PMTCコントラなどを用いていることもご説明いただきました。

そして、定期的なメインテナンスにおける「記録を残すこと」の重要性も特に強くお話しされました。状態の変化を辿ることで予後が想像でき、早く対応できることで進行を防ぐことが可能になります。基本的に忠実なことを的確にやっていくことが、結局はエラーのないメインテナンスにつながるのだということを理解しました。

ご講演では、インプラント周囲炎のリスクファクターやCISTを活用した治療、BRONJ/MRONJ、についても述べられ、今後の問題としてフレイルについても説明していただき、歯科衛生士にとどまらず歯科医師も知っておかなければならない情報が共有できたことは、視聴されたすべての方にとってとても意義のあることだったと思います。

Web講演は、家庭があり休日にでかけることがままならない当院の歯科衛生士たちにとっても大変評判がよく、特に今回の河野先生のご講演ではスタッフからの視聴報告がLINEで届くなど、時代の変化も感じております。今回の講演会にあたり、講師の先生はじめ企画・運営・現場での対応にご尽力くださったすべての方々に感謝いたします。



「CISJ オンデマンド動画」のお知らせ

当会 HP のマイページにある CISJ オンデマンド動画をご存知ですか？
 岩野 義弘先生、水口 稔之先生、そして、第3弾に田中 譲治先生！と錚々たるメンバーのご講演が掲載されています。今後も増やしていく予定でありますので、ぜひご覧ください。
 また、当会会員で講演いただきたい内容、会員のご指名がございましたら、お気軽に高崎事務局・波多野様まで (implant@cisj.org) お知らせください。

CISJ 学術委員会・IT 委員会